

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人楽友会

目 次

I. はじめに	1
II. 法人運営	2
III. 施設サービス（特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム）	
1. 特別養護老人ホーム白楽荘	4
2. 軽費老人ホームA型 偕楽荘	10
IV. 在宅サービス（通所介護・訪問介護・居宅介護支援）	
1. 白楽荘デイサービスセンター えがお・ほのぼの	13
2. ほのぼの堀之内	19
3. 白楽荘訪問介護事業所	22
4. 白楽荘居宅介護支援事業所	25
5. 白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか	28
V. 地域包括支援センター（多摩市・八王子市）	
1. 多摩市多摩センター地域包括支援センター	31
2. 八王子市高齢者あんしん相談センター由木東	34

表の見方

重点的な取り組みの大項目	
《内 容》	《結 果》
・ 具体的な取り組み	取り組み結果コメント
・ 目標年間利用率	取り組み結果コメント
《総括》 大項目についての総括コメント	《総合評価》 A～C
《次年度以降にむけて》 今後の方針や取り組みなど	

総合評価 A：重点的な取り組みについて達成できた。

B：重点的な取り組みについてほぼ達成できた。

C：重点的な取り組みについては不十分だった。

I. はじめに

令和2年度の事業を振り返ると、あらゆる面で新型コロナウイルスへの対応に終始したという一言に尽きると思います。年度開始早々に最初の緊急事態宣言が発出され、未知の感染症への対応について、東京都をはじめとする関係機関からの通知や連日の報道から得られる情報をもとに協議し、適宜対策を講じてきました。

都内では特別養護老人ホーム等の高齢者施設でも新型コロナウイルスによるクラスター発生事例が増加し、当法人から応援職員を派遣することもありました。当法人においても、通所介護事業所ご利用者や職員に数名の感染がありましたが、幸いなことに入所施設等でのクラスター発生は未然に防ぐことができました。しかし、感染拡大防止を第一に考えた結果ではありますが、通所介護事業所を一定期間休止したことはご利用者や関係者へ多くの影響を及ぼすこととなりました。以来、より感染防止対策を徹底し、事業を安定的に継続していくことに努め、楽友会のサービスを安心して利用していただけるよう取り組んできました。

近隣地域でも様々な行事やイベントが中止となり、当法人でも地域の方との交流が絶たれた1年でした。毎年地域の皆様に好評の納涼祭は開催を見送り、秋の長寿を祝う会もご家族等の参加はご遠慮いただき、ご利用者と職員のみで実施をしました。当初、11月頃であれば開催できるのではないかと考えていた楽友祭についても、結局新型コロナウイルスは沈静化せず、開催を断念せざる得ませんでした。それでも、従来とは違う形であっても地域とのつながりを作ろう、少しでも地域活動をしようという思いから、楽友祭開催予定日に職員が地域のごみ拾い活動を展開し、地域への感謝の気持ちを表しました。

一方、長引くコロナ禍でも新たな取り組みが始まっています。特に感染防止の観点から日常的にオンラインの活用が急速に広まり、今では職員研修や会議などの新たな手法として一般的に普及しています。当法人もこうした動きに合わせて、通信環境の整備やデジタル機器の導入に取り組みました。今後もこのようなデジタル関連の活用はより一層進むことになると考えています。

また、当法人にとって2カ所目となる居宅介護支援事業所を多摩市豊ヶ丘に開所しました。非常に厳しい時期の開所となりましたが、6月には併設された健幸つながるひろばとよよんとともに、豊ヶ丘商店街の事業所での業務を開始することが出来ました。そして、とよよんでは新たな人と人のつながりを作る取り組みも始まりました。

この1年余りの間、私たち福祉・介護事業に従事する者は、日常生活に欠かせぬ役割を担う者として、新型コロナウイルスという未知の脅威のなか感染防止に努めながら、様々な制約や直面する課題に悩み、右往左往しながら、それでもサービスの提供を続けてきました。私たちは、地域の福祉・介護、人と人のつながりを守るために懸命に歩み続けた令和2年度を、決して忘れず、次につなげていきたいと思えます。

社会福祉法人楽友会 職員一同

II. 法人運営

令和2年度の重点的な取り組みについて

山王下施設大規模修繕		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> 主に老朽化した設備の更新及び施設内住環境の改善、職場環境の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響及び施設利用者への感染防止を優先し大規模修繕計画を進めることができなかった。 新型コロナウイルスの影響を考慮し、年度途中より新たな大規模修繕プロジェクトチームを立ち上げ、次年度以降の計画について検討した。 	
《総括》 新型コロナウイルスの影響で計画の見直しに取り組んだ。現在までの計画を基に計画全体のスケジュール等の変更を検討した。施設の修繕費用は年々増している。特に建物設備や入居施設の室内環境については、早急に対応する必要がある、コロナ過で必要となることも含めて再検討を開始した。	《総合評価》 C	
《次年度以降にむけて》 新型コロナウイルス感染拡大状況に注視し、新型コロナウイルス感染症の影響で遅れが生じた実施設計が完了した段階で、今後の対応を早急に検討する。新型コロナウイルスの影響を考慮して、資金計画や長期修繕計画の見直しについても検討する。		

人事制度の見直し及び改編		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> キャリアパス体系の整備とともに給与制度、人事考課制度の見直しに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部コンサルタントとともに、人事制度の見直しを進めた。キャリアパス体系、給与制度、人事考課制度について制度案作りが進んでいる。 	
《総括》 新型コロナウイルスの影響により一時作業が中断したが、2023年度からの全面運用を目指し、外部コンサルタントと担当者との定期的な検討と作業に取り組んだ。	《総合評価》 A	
《次年度以降にむけて》 人事制度の見直しは法人にとっても重要課題であり、安定した経営と人材の確保、育成、定着を目的として引き続き取り組んでいく。令和3年度で新人事制度（案）をまとめ、その後は実際の運用にむけた調整を図る予定。		

第2期経営計画の策定		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の小委員会での検討を基に、法人長期ビジョン2015における第2期経営策定に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設事業所での検討や管理職からの意見等を取り纏めて計画策定に取り組み完了することができた。 	
《総括》 一昨年度からの検討をもとに、各施設事業所の検討、法人内での検討を経て、計画案を取りまとめた。5年後の目指す姿を位置付け、第1期経営計画を引き継ぐ計画として策定することができた。	《総合評価》 A	
《次年度以降にむけて》 第2期経営計画の達成に向けて、必要なプロジェクトチームの立ち上げや担当者の割り振りなど、単年度の事業計画とあわせて具体的な方法で計画内容の実現化に取り組んでいく。		

法人内部管理体制の強化		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンプライアンスを重視し、各種手続きの点検、見直しに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業規則の改定やネットバンキングの導入、各規程の見直しを実施した。 ・ 各種事務手続きの見直しに取り組み、雇用契約書改定や各種台帳の再整備などに取り組んだ。 ・ コンプライアンス研修を全職員対象に実施した。 	
《総括》 コンプライアンスを重視し、各種規定の見直しや必要に応じた改正に取り組んだ。法令改正にあわせた就業規則等の改定、職員情報管理システムの構築など具体的な成果を出すことができた。また、経営管理本部の職員間で適宜話し合い、今後見直さなければならない事項の洗い出しやそれらの優先順位付けを行うことができた。	《総合評価》 A	
《次年度以降にむけて》 各種規定や手続きなどの課題を明確にして引き続き必要な見直しを行っていく。改定した規程や見直しを図った事務手続き等の運用について、各事業所や職員及び管理職への周知と手順等の調整に取り組み、コンプライアンスの確立に努めていく。		

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 法人新型コロナウイルス感染症対策本部会議を適宜開催し、法人の取り組み等を検討。法人の新型コロナウイルス対応ガイドラインを作成し適宜見直しを行った。
- ・ 新型コロナウイルス対策のためマスク等衛生資材の確保に努めた。もともと災害等の発生に

備えて備蓄していた衛生資材で十分に対応することができた。近隣の介護施設、病院等へ必要に応じて衛生資材を提供した。

- ・ 1回目の緊急事態宣言時に経営管理本部職員の分散出勤（テレワーク）を実施、サービス事業所職員の臨時的な車通勤等への変更に対応した。
- ・ 感染対策の強化に取り組み、各施設事業所要所への手指消毒装置、山王下施設入り口への手洗い器、検温装置などを設置した。
- ・ 職員への感染対策のため、携帯用手指消毒ボトル等の配布、マスクの配布等に取り組んだ。
- ・ We b環境の整備に取り組み、山王下施設等の全館 Wi-Fi 化、タブレットやノートパソコンによるWe b通信機器の強化を図った。各施設事業所において、We b研修やオンラインによる会議等が開始された。
- ・ 都内高齢者施設従業者への一斉PCR検査（3月実施）の受検に対応した。山王下施設従業者151名に検査を実施。結果全員陰性であった。
- ・ 新型コロナウイルス関連の補助金や助成金について、施設事業所と協力して手続き等に取り組んだ。

Ⅲ. 施設サービス（特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム）

1. 特別養護老人ホーム白楽荘

令和2年度の重点的な取り組みについて

《特養》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：95.0%	94.2%
収益：673,164千円	680,584千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機者の安定的な確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度末に実施した入所意向調査を集計し待機者名簿を作成した。 ・ 各種会議などは中止となり、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等の職員と直接対面する機会は取れなかったが、老健や病院からの紹介や在宅生活が厳しくなり入所への相談なども多くみられ速やかに対応した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規入居までにかかる空床期間の短縮。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初は入居予定者が少なく、入居までに時間がかかっていたが、書類による選定に看護師が加わり、医療看護の面から入居

	<p>候補者選定の幅が広がったことで、入居予定者の一定数の確保と空床期間の短縮につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居希望者や家族には写真などを活用し、施設での生活についてわかりやすい説明に努め、資料請求希望者にも本部とともに速やかに対応した。
<ul style="list-style-type: none"> 適切な入退院対応による身体状況や病状の悪化回避。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアワーカー、看護師、相談員で連携を取り早めの受診対応に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 介護報酬における新たな加算の取得。 	<ul style="list-style-type: none"> B C Pの作成などを含め経営支援補助金の加算対象になる項目について整備した。
<p>《総括》</p> <p>年末年始にかけて退居者が続いたことが大きく影響し、目標利用率にはわずかに届かなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、入居候補者の事前面談などが難しいなか、Web面談の提案や実施など創意工夫して、新規入居までの空床期間の短縮に努めた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>感染症予防に努めながら関係機関との連携を図り、入居予定者を安定的に確保し空床期間の短縮に努める。</p>	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 利用者や来荘者が過ごしやすい空間を作るため、各フロアの共有スペースの環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のため外出などができなかったが、フロア内で季節感を感じてもらえるように、季節にちなんだ飾り付けなど取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> 利用者のQOLの向上を目指したケアプラン作成及びケアの提供に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 副主任を中心にケアプランのマニュアル作成に取り組んだ。 多職種連携を図るための取り組みを検討し、各専門職が地域活動に取り組むことで互いの職種についての理解や協働につながるよう取り組むことができた。
<ul style="list-style-type: none"> 協力医療機関との連携を強化し円滑に医療ニーズに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部協力医療機関の体制が変わったことで、入院受け入れが厳しくなったが、他の医療機関への協力要請等により、適宜入院への対応ができた。

<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防に全職員が力を注ぎ、感染疑いが生じた場合でも迅速に対策を行い、施設内への感染拡大を防いだ。大規模改修は未実施だったが、利用者の日常生活動作の改善のために優先度の高い箇所については個別に環境整備に取り組んだ。家族面会やボランティア活動の中止などが続いたが、感染対策を講じて外気浴の実施や看取りの方への個別面会など柔軟な対応を行った。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>感染予防を今後も継続し、新型コロナウイルスを施設内に持ち込まないことに徹底して努める。また、感染対策を講じて個別のニーズに対応できるよう柔軟に工夫していく。早期の入院支援ができるように近隣医療機関の情報共有や関係性の強化に努める。</p>	

<p>人材育成・やりがい・はたらきがい</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門技術の向上及びスーパーバイザーとしての知識習得につながる研修機会の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、集合型研修の多くが中止となった。反面、Web研修が増え、集合型よりも職員が参加しやすくなり、適宜参加ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門の業務内容を点検し、業務効率化へ取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi 環境の整備やシステムの見直しを行い、新年度に介護保険ソフトの入れ替えを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に介護業務における身体的負担の軽減について検討し対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗時の負担軽減を図れるように、ケアワーカー間で検討し、スライディングボードの活用をすすめた。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、他施設との人材交流などできなくなったことも多かったが、WEBの活用やオンラインによる研修参加など今までと違った形での取り組みもできた。研修を受講した職員からの伝達研修が十分にはできなかった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>職員の意見が施設運営に反映できるよう委員会や会議を充実させ、職員のはたらきがいにつなげていく。また、Webを活用して職員が研修に参加できる機会を増やしていく。</p>	

<p>地域にむけて</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や関係機関からの要請に応じて、施設職員を地域活動に派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症のため、地域活動は難しかったが、少ない回数ではあった

	<p>がとよよんでの介護予防体操や認知症予防講座といった介護予防教室を開催できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習が中止となった学校からの依頼により、Webでの講義を多職種で行うなどで柔軟に対応することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待等による緊急ケースを適宜受け入れ、高齢者福祉のセーフティネットとしての地域からの信頼に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターや行政からの要請に受け入れ調整を図り対応した。 ・ 在宅生活が困難となり、緊急ショートステイ利用から入所に至ったケースが8件、虐待等による措置入所が2件あった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設サービスのPR活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、地域と交流する機会がすべて中止となった。 ・ とよよんでの活動を介して、白楽荘を地域住民に知っていただく機会を作った。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、数多く地域との交流を図ることが難しかったが、少人数対象の講座や教育機関とのWEBを利用した交流など、創意工夫しながら取り組むことができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>感染症対策を徹底して今後も地域と交流を図れるよう取り組みを継続し、施設職員が地域住民や関係者と交流する機会を設けていく。また、今後も引き続き緊急ケースには柔軟な対応を行っていく。</p>	

《短期入所生活介護》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：100%	103.7%
収益：45,100千円	46,755千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規および継続利用者の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等と直接顔をあわせる機会は減少したが、ケースごとの相談、対応等を丁寧に行い新規利用者の紹介も多く得られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急の受け入れ依頼もほぼ毎月あり、可能な限り協力的に受け入れの対応をした。

	<ul style="list-style-type: none"> 在宅での介護力が弱いケースに対し他のサービス事業所やケアマネジャーとの情報共有を積極的に行い、連携を深めた。
<p>《総括》</p> <p>4月、5月は新型コロナウイルス感染予防のため、新規受け入れを中止したが、以降については感染予防対策を図り柔軟に受け入れを行った。平均して毎月約5件の新規利用実績があったが、緊急受け入れケースの場合は以後の在宅生活が困難な方が多く、短期入所を継続して利用される方は、新規利用者のうち1/3程度となっている。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>引き続き利用者及び家族の協力を得て感染症予防に取り組み、サービスを提供していく。また、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの情報共有を丁寧に行い、信頼関係を深めていく。</p>	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 共有スペースや居室の環境を整備し、自宅と同様にリラックスして過ごしやすい空間を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の希望を伺い、テレビの設置やベッドの配置なども過ごしやすいように柔軟に対応した。
<ul style="list-style-type: none"> 在宅生活を継続するために、自宅での生活を意識した支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人意向がより明確になるよう計画書の見直しを図り、身体機能を維持するサービスの提供に努めた。
<p>《総括》</p> <p>コロナ禍により施設の大規模改修は未実施であったが、利用者個々の生活状況や動作に適應できるよう環境整備を行った。また、多職種で連携し、褥瘡予防、移乗、移動動作の評価を行い在宅生活継続に向けた自立支援に取り組むことができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>利用するフロアが変わっても利用者へのサービスが統一して行えるように、支援内容の共有に努め、在宅生活が継続できるよう個別支援を図る。</p>	

人材育成・やりがい・はたらきがい	《総合評価》
※ 特養を参照	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 虐待等による緊急ケースを適宜受け入れ、高齢者福祉のセーフティーネットとしての地域からの信頼に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待、介護者の入院等による緊急の利用がほぼ毎月平均して1～2件あり、柔軟に受け入れを行った。
<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘ショートステイのPR活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、地域での活動はできなかったが、ケアマネジャーとの情報共有などを通して、他のケアマネジャーにも白楽荘のサービスが伝わり、新規利用依頼につながった。
<p>《総括》</p> <p>介護者の入院などにより利用が長期化した方や在宅生活が困難になられた方に対しても、入所に向けた調整を図るなど他事業所と連携しながら柔軟に対応することができた。また、他施設の新型コロナウイルス感染症蔓延によりショートステイ利用が困難となられた方の相談にも適宜対応した。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>緊急な利用相談等にも他事業所との情報共有を図りながら、柔軟に対応し支援することで地域からの信頼を確保できるよう取り組む。</p>	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 感染拡大防止のため、5階、6階、7階各フロア間の利用者及び職員の移動を停止。
- ・ 感染防止のためボランティアの活動を休止。緊急事態宣言終息後に一部活動を再開した。
- ・ 感染防止のため、家族等の面会について対応を変更した。緊急事態宣言下においては、原則として面会休止とし、それ以外の面会については予約制で感染対策（マスク、フェイスガード着用）を講じて実施した。
- ・ 短期入所利用時の健康チェックを強化。利用前の体調調べや利用日送迎時の検温等の実施により感染拡大防止に取り組んだ。
- ・ 他施設や医療機関に在籍している新規入居予定者の訪問面接等が困難となり、他施設等と協議してWeb面接を開始した。
- ・ 施設利用者及び職員への感染事例は2名であった（いずれも職員）。保健所、多摩市役所等と連携し感染拡大防止に取り組み、利用者及び職員の濃厚接触者へのPCR検査（いずれも結果は陰性）等の対応にあたった。

2. 軽費老人ホームA型 偕楽荘

令和2年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：100%	100%
収益：134,000千円	138,643千円
《取組内容》	《結 果》
・ 入居申込者の安定的な確保	・ 入居4名、退居4名であった。年間を通じて入居者50名を維持できた。また、待機者も67名おり安定している。
・ 東京都補助金における加算の取得	・ サービス推進費の重度者加算、通院同行加算、介護予防加算について適宜申請を行い取得に繋げた
《総括》 年間を通じて利用率100%を維持できた。また、サービス推進費についても適宜申請を行い、年間収益も目標を上回った。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 継続して年間利用率100%を維持する。また、東京都の補助金であるサービス推進費についても適宜申請を行う。サービス推進費対象者への加算用件の充実を図る。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
・ 健康寿命の増進にむけて介護予防やフレイル予防を意識した活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虚弱な方が参加しやすいよう、椅子に座って行えるゆるゆる体操を今年度から開始した。 ・ GOGO体操（介護予防体操）やゆるゆる体操の定期的な実施により利用者の体操参加への意欲は上がって来た。
・ 利用者の日常生活上の事故等に対するリスクの低減に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月各階ごとに防災訓練を実施。 ・ 外部研修として多摩市役所交通課による交通講習を実施。
・ 利用者の活気ある生活を実現するため、季節ごとのイベントや行事を企画し実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の状況で、季節の施設行事も形式を変えてそれぞれ工夫して実施した。 ・ 納涼祭が中止となった為、施設でフルーツバイキングを開催した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老祝賀会は例年家族も参加して実施していたが、今年度は利用者のみで開催した。 ・ グループ旅行をコロナ禍により見合わせ、代替として日本料理の仕出し弁当による秋の会食会を実施。
《総括》 コロナ禍のため、通年通りの行事開催は難しかったが、感染対策を行いながら施設内での行事に切り替えて行った。外出を控える利用者が多く見られ、筋力維持の為、介護予防体操を週に3回以上に回数を増やして行った。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 フレイル予防として、個々のデータを基に目に見える形で評価とフィードバックを行ないたい。次年度も施設内での体操を週3回以上実施し、集団支援、個別支援に力を入れ介護予防に取り組む。感染対策を行いながらの施設行事、クラブ活動を継続していく。	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽費老人ホーム職員として必要な知識や対人援助技術について、研修等を通じて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内で専門職による施設内研修を実施。また、介護予防教室『GOGO 体操』の講師による介護予防・フレイル予防研修をWebで実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の軽費老人ホームや種別の違う施設の取り組みについて学び、知識の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた他施設との職場交流は実施できなかった。情報交換の場としてWebで他施設職員と意見交換会を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場内の報・連・相の強化により、職種間の情報共有を深め意見交換を活発化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝礼、夕礼以外にも利用者支援変更時は都度検討を行い、職種ごとの意見交換を行なった。 ・ 会議では毎月司会をする職員を変更し、全職員が発言できるよう取り組んだ。
《総括》 新型コロナウイルス感染症の影響で、外部研修への参加はできなかった。そのため、施設内研修を行い専門性の向上に努めた。また、会議などで発言する機会を増やしていくため司会進行などを持ち回りで実施した。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった他施設との職場交流を行い、他施設の取り組みなどを参考にサービスの向上に繋げていきたい。また、各職員が担当業務を通してリーダー役を務め、業務マネジメント能力を高めていきたい。	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 地域高齢者の健康寿命増進にむけて、施設での介護予防等の取り組みを地域高齢者に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のため、料理教室『わくわくキッチン』は開催を見送った。 介護予防教室『GOGO 体操』は毎年実施していた体力測定のみ近隣の公民館で実施したが参加者3名という結果であった。
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者が地域の一員として地域貢献に繋がる取組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援B型の利用者とともに畑仕事を実施。コロナ過で一時中止していたが年間を通して参加できた。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者等にむけた施設PR活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域向け広報誌『偕覧板』を5月に発行した。年4回発行を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が行えず発行回数は減少した。 Facebookは適宜更新した。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため、地域高齢者と共同で行うイベントはできなかったが、施設での取り組みなどを広報誌でお知らせし地域との関係性の維持に努めた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>コロナ過での活動の経験を活かし、地域高齢者の介護予防などについてWebを活用し地域に発信を行いたい。また、地域の一員として、地域の安全、安心につながる社会活動への取り組みなどを検討したい。</p>	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- 施設利用者への不要不急の外出を控えるよう取り組み、利用者の外出機会減少による体力低下防止のため、施設内での体操等の運動機会の増加に取り組んだ。
- 感染防止のため外出行事を中止し、施設内で実施する企画に変更して対応した。
- 利用者家族等に感染防止のため不要不急の面会は控えていただくよう要請した。
- 感染防止のためボランティアの受入れを休止。緊急事態宣言が終息後に一部受け入れを再開。
- 感染拡大防止のため地域高齢者が参加するイベント等を休止した。
- 感染拡大防止のため施設食堂内の各テーブルにアクリル板を設置した。

IV. 在宅サービス（通所介護・訪問介護・居宅介護支援）

1. 白楽荘デイサービスえがお・ほのぼの

令和2年度の重点的な取り組みについて

《白楽荘デイサービスえがお》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：73.5%	58.9%
収益：85,400千円	69,936千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービスの組織体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職種（介護・医療・相談）間で、相互に作用しながら問題解決に取り組む体制づくりに取り組んだ。 ・ 各職種や就業形態の差異が無く、均衡が取れる風土づくりと組織のあり方を工夫した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所との綿密な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットの更新などで事業所の周知等にはある程度の成果は出せたが、コロナ禍でケアマネジャーと対面での連携が取れなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度の高いサービス提供のための利用者ニーズの把握とサービス内容への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のニーズを把握するために、担当者会議だけではなく、送迎時や連絡帳なども活用し、ご利用者やご家族が望んでいるサービスの把握に努めた。 ・ アセスメントシートの活用も含め、全利用者のサービスに反映する事は出来なかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年末年始期間中の営業日の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な実施には至らなかった。
<p>《総括》</p> <p>コロナ禍で通所を控える利用者や新規依頼についても大幅に減少した。感染対策を講じて利用率向上や収益確保に取り組んだが、結果、目標達成には至っていない。感染症対策を講じて安心して利用できるような体制を整えつつ、着実に収益に繋げられるよう、次年度にむけて新体制の構築を図った。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">C</p>

《次年度以降にむけて》

新型コロナウイルス感染症等の社会情勢や利用率の実態に合わせて事業形態を考え、人材と人員を適所に配置し、効率の良い運営形態を作る。また、各職種の業務を専有単一化するのではなく、職種間で相互に兼務してサービスの充実に取り組む。

提供サービスの充実・向上

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の要望を取り入れた効果的なサービス内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の希望や要望を聞き、その情報をもとにミーティングや会議で具体的なサービスについて定期的に検討した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ きめ細かな通所介護計画書の作成と個々の支援内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所介護計画書の書式の見直しを行い、サービス内容が明確になるよう変更した。 ・ 常に通所介護計画書と利用者の状態像、サービス内容が把握できる体制を整えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の活性化にむけたアクティビティの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で、ボランティアや療法士を招いた従来の支援が十分に実施できなかった。 ・ 全職員が協力してプログラムの開発に取り組んだ。 ・ 正職員に加えて臨時職員を含めて全職員でアクティビティ活動を担当して内容の充実に取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>コロナ禍で計画していた支援や活動が出来ていない状況であった。しかし、外部の団体にオンラインでの活動を依頼し、職員間でも様々なプログラムを開発し実践した。また、歯科検診の無料サービスなどを手掛けるなど、在宅生活に必要なサービス提供を実施することが出来た。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>利用者が楽しめるプログラムは、コロナ禍でも提供することが出来た。しかし、介護予防の観点からは、具体的な計画や実施に至っていない。次年度は、介護予防に焦点を当てた取り組みを考え、4月以降の実践に取り組んでいく。</p>	

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有と目的意識を高めるため、全職員を対象にした会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が参加する会議を毎月開催することが出来た。 ・ 共通の課題と意識を持つことで、目標の設定と具体的な評価が可能になった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の支援力を高める個別ケース検討の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の会議やミーティングで個々の職員が考える力を養うためのケース検討を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症研修やリスクマネジメント研修など、基礎的な研修を実施した。 ・ 会議の中での幾つかの課題を出し、通所介護計画書の考え方や利用者の状況を的確に伝える記録方法などの勉強を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が一体となった体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員参加型の会議の開催や職種間の連携強化のための業務改善などに取り組んだ。 ・ 支援に関する共通認識を更に深める必要がある。
<p>《総括》</p> <p>計画していた内容を実施する事は出来た。人材の育成や職員のやりがいには完全には結び付いていない。必要な改善は業務の変更や変化を伴うので、個々の職員に理解してもらふ事は大切ではあり、臨時職員が大半を占める事業所では職員個々の勤務形態の違いから、かなりの時間を費やす必要があった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>職員個々の意見を引き出し、より良いサービスを実現していく事が職員のモチベーションの向上ややりがいに繋がる。職員間で対話する機会を意図的に作ったり、ミーティングや会議の開催方法を再検討したりするなどに取り組む。</p>	

<p>地域にむけて</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結 果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や家族を対象にした介護教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で介護教室などのイベントは未実施となっている。しかし、広報誌を通して必要な情報提供を行うなど、新たな取り組みを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事などへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍でデイサービス職員が主体となった参加は未実施となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣学校からの実習生の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士養成課程の実習生を受け入れた。その他、介護体験や職場体験などの実習は、コロナ禍で中止となった。
<p>《総括》</p> <p>介護福祉士や社会福祉士実習の受入れとして、在宅サービスの需要が増えている。しかし、各事業所の職員数や職員の保有資格の関係から、受け入れ人数や期間の調整が難しかった。また、地域の行事やイベントについては、コロナ禍</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>

で中止となる事が多く、今後の地域での活動方法については検討していく必要がある。	
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>実習生の受け入れに関して事業所の環境やマニュアルの整備などに取り組む。また、実習指導に必要な資格の取得を推奨していく。地域にむけての課題として、コロナ禍でどのようにしてボランティア活動（アクティビティ系、演芸系など）を事業所内で展開していくのか、具体的な活動方法について検討する必要がある。</p>	

《白楽荘デイサービスほのぼの》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：80.0%	68.2%
収益：42,176千円	37,225千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービス組織体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職種（介護・医療・相談）間で、相互に作用しながら問題解決に取り組む体制づくりに取り組んだ。 ・ 各職種や就業形態の差異が無く、均衡が取れる風土づくりと組織のあり方を工夫した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所との綿密な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットの更新などで事業所の周知等にはある程度の成果は出せたが、コロナ禍でケアマネジャーと対面での連携が取れなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症支援に特化した取り組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで専門の療法士によるプログラムを中心に実施していたが、コロナ禍において活動が不十分であった。 ・ 職員で新たなプログラムを検討したが、引き続きの課題となっている。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルスの影響で事業を一時的に休止したこともあり、目標の達成には至らなかった。しかし、コロナ禍においても事業継続に期待される声は多く、認知症支援の必要性を改めて強く感じた。事業休止中に家族やケアマネジャーからの意見を聞くことができ、今後のサービス提供の充実に向けて活かしていく。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>

《次年度以降にむけて》

利用率の向上に向けて認知症対応プログラムを作り、認知症ケアの充実に取り組む。ほのぼの堀之内との連携を強化しサービス内容の充実を図る。また、介護保険改正に伴い加算の算定などに適宜取り組み、収入の安定化を図る。正職員、臨時職員の役割分担を見直し、また各職種が業務協力する体制を構築して、効率的な運営を図る。

提供サービスの充実・向上

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな通所介護計画書の作成と個々の支援内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 通所介護計画書の書式の見直しを行い、サービス内容が明確になるよう変更した。 常に通所介護計画書と利用者の状態像、サービス内容が把握できる体制を整えた。
<ul style="list-style-type: none"> 認知症支援に特化した各種療法の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽療法や回想法などは、外部の療法士に依頼していたが、コロナ禍での取り組みとして職員が新たに認知症支援のプログラムを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 効果的なサービス内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 看護職員が中心となって行う生活支援・認知症支援プログラムを年度内に計画し実施した。

《総括》

新型コロナウイルスの影響により計画どおりの支援が出来なかった。そこで、オンラインを活用した外部団体との連携や職員が新たなプログラムを検討し実施していくなど、コロナ禍だからこそ実現した認知症支援もあった。

《総合評価》

B

《次年度以降にむけて》

コロナ禍での取り組みの強化、例えば外部団体（ボラセン・ボランティア団体）とオンラインを通しての活動やYouTubeを活用したプログラムなどを検討したい。また、少人数での生活支援プログラムの取り組みなどを実施していく。

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 情報共有と目的意識を高めるため、全職員を対象にした会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が参加する会議を毎月開催することが出来た。 共通の課題と意識を持つことで、目標の設定と具体的な評価が可能になった。
<ul style="list-style-type: none"> 職員の支援力を高める個別ケース検討の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の会議やミーティングで個々の職員が考える力を養うためのケース検討を実施した。

<ul style="list-style-type: none"> 内部研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症研修やリスクマネジメント研修など、基礎的な研修を実施した。 会議の中での幾つかの課題を出し、通所介護計画書の考え方や利用者の状況を的確に伝える記録方法などの勉強を行った。 	
<ul style="list-style-type: none"> 全職員が一体となった体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員参加型の会議の開催や職種間の連携強化のための業務改善などに取り組んだ。 支援に関する共通認識を更に深める必要がある。 	
<p>《総括》</p> <p>職員全体のやりがいや人材育成への取り組みは、職員全体で対話できる関係性を構築することが必要であり、業務改善やケース検討も正職員や担当職員だけで判断せず、臨時職員を含む全職員が当事者意識を持って取り組めるよう会議や研修等の機会を活用した。</p>		<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>認知症ケアの実践に即した研修体系の確立が必要である。また、職員の意見を吸い上げてサービスに活かしていく。職員の雇用形態を問わず、広く意見を募り業務の改善やサービスに反映していく事で、個々の職員のはたらきがい結び付けていく。</p>		

<p>地域にむけて</p>		
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民やご家族を対象にした介護者教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で介護教室などのイベントは未実施となっている。しかし、広報誌を通して必要な情報提供を行うなど、新たな取り組みを実施してきた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地域行事などへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中でデイサービス職員が主体となった参加は未実施である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 近隣学校の実習生の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士養成課程の実習生を受け入れた。その他、介護体験や職場体験などの実習は、コロナ禍で中止となった。 	
<p>《総括》</p> <p>地域行事への参加など、コロナ禍で未実施となった。年度途中より、広報誌を通して地域に向けた発信をするなどに取り組んだ。また、介護体験や職場体験などが中止とはなったが、コロナ禍により受け入れ先が減少した介護福祉士や社会福祉士の実習生の受け入れについて検討する必要がある。</p>		<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p>		

コロナ禍において、地域のボランティアとの関わり方を考えていく必要がある。今年度は多摩ボランティアセンターを通して、オンラインによりボランティアとの交流を持ってきた。次年度に向けても同様の取り組みを強化していく。また、実習生の受入れについても担当者を増やして、セクションごとに割り振るなど、近隣学校の実習生の受入れ体制の整備を図る。

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 1回目の緊急事態宣言時に多摩市と協議し、感染拡大防止のため事業を縮小して実施（4月23日～5月11日）。通所時間、通所人数を減らし、代替サービスとして利用者宅での訪問サービスを実施。
- ・ 送迎時の感染防止対策を強化。換気、消毒の徹底、利用者への乗車前検温等の実施に取り組む。
- ・ 感染防止のためボランティアの受入れを停止。アクティビティは職員主体の活動へ順次切り替えて対応した。また、3密回避をはかり、活動内容の見直しを適宜行った。
- ・ 利用者への感染事例が複数発生。保健所、多摩市役所等と対応を協議しの濃厚接触者に該当する他利用者及び職員のPCR検査を調整（結果は全員陰性）。また、感染拡大防止のため都合2回、事業休止を実施（8月26日～9月1日及び9月30日～10月10日）。

2. ほのぼの堀之内

令和2年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：84.0%	81.5%
収益：44,670千円	41,879千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所や高齢者あんしん相談センターとの綿密な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あんしん相談センター主催の認知症サポーター養成講座に2回参加。 ・ 居宅介護支援事業所と担当するご利用者支援を基本に連携し、各居宅介護支援事業所にも定期的に情報提供を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験農園での農作業活動やセレクトメニューの実施など特色のある支援を提供した。 ・ 認知症の方が落ち着いて過ごせるよう小グループ活動を基本にしたレクリエーションプログラムを提供した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 迅速な新規利用者の受け入れ体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅生活の状況や介護者の今後の意向について、担当ケアマネジャーと情報共有し、

	<p>利用終了時期について早めに把握できるよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規利用希望へは迅速に対応し、見学や体験利用希望にも適宜対応した。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の介護度が高くなると施設入所等のサービスへ移行されるケースがあり、その後の新規利用者受け入れまでの空白期間の短縮を図ることが利用率目標の達成に必要であった。 新型コロナウイルスへの感染対策を講じつつ、特色のある活動や落ち着いた雰囲気での支援を提供することで、目標の利用率には届かなかったが、コロナ禍ではあったが年間を通じて安定した利用率を保つことが出来た。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>介護報酬の改定により新たな加算を算定することや利用者負担額の適正な見直しなどを検討し、次年度に向けての収益の確保に取り組んでいく。また、認知症支援をより充実することで新規利用者の増加、現利用者の満足度向上を図り安定した利用率確保を目指す。</p>	

<p>提供サービスの充実・向上</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> アセスメントに基づく個別支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用時の初回アセスメント以降も利用時の様子や家族からの聞き取りなどで更新し、通所介護計画書の作成とサービス提供に活かした。
<ul style="list-style-type: none"> 利用者、家族の意向を尊重した支援 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者家族とのコミュニケーションを大切に捉え、送迎時や電話連絡の際に普段の様子を伝えつつ、家族の意向や要望の把握に努め、サービスの向上に活かせるよう取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> プログラム内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 一日のスケジュールやプログラムは、その日の利用者の状態や参加人数を考慮して柔軟に対応した。 レクリエーション等の活動は、利用者の意見を取り入れて充実するよう取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>利用者、ご家族、ケアマネジャー、事業所の4者との円滑な関係性が構築され、事業所からサービス担当者会議の開催提案なども行えている。小規模事業所での少人数ケアであることで個別支援の観点では全職員が共通認識を持ち、個々に適切なケアの提供に努めることができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>

《次年度以降にむけて》

認知症ケアの充実のために、職員間のミーティングや会議の開催を充実していく。また、白楽荘デイサービスほのぼのとの職員交流を行い、互いに良い点を吸収しながらサービスの向上に取り組んでいく。

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 職員の適性或希望に応じた研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 職員と定期的に面接を行い、職員の適性或研修などの希望を聞き研修計画を立てた。しかし、コロナ禍で予定していた研修が出来なかった。
<ul style="list-style-type: none"> 業務マニュアルの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善による手順等の変更にあわせて適宜マニュアルの変更を行った。必要なマニュアルを整備すると共に適時見直しを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 職場環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、密にならない職員休憩スペースの確保が課題となった。

《総括》

小規模事業所であり職員同士が適宜コミュニケーションも取りやすく、業務の改善やケースの検討等、職員間の話し合いも円滑に行えた。今後も引き続き業務改善等に向けて職員間で活発な意見交換等に取り組んでいく。

《総合評価》

B

《次年度以降にむけて》

事業所の職員は臨時職員が大半であるが、正職員が常に利用者支援の中心となるのではなく、臨時職員も研修や勉強の機会をより設けて、全職員が事業運営に関わるような体制を目指していきたい。

地域にむけて

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 近隣の学校を中心としたボランティアの受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響によりボランティアの受け入れは計画どおりできなかった。 ボランティアの受け入れ休止期間中は、新たなボランティア受付や受け入れ再開への準備に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で地域活動は未実施となった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣小学校や保育園等との密接な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの影響で中止となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族懇親会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画していた家族懇談会は新型コロナウイルスの影響で中止した。しかし、地域で活動する認知症家族会に職員が参加し、ほのぼの堀之内の活動等の周知に取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルスの影響で計画した地域活動はほぼ未実施となった。しかし、年度途中より活動方法の変更を検討し、可能な限り地域との関係を保つように努めた。また、近隣の学校からの生徒等の受け入れは難しかったが、介護福祉士や社会福祉士の実習生の受け入れをすることが出来た。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>新型コロナウイルスの影響を考慮して様々な取り組みを検討していく。また、介護福祉士や社会福祉士の在宅サービス事業所での実習希望が増えてきており、当事業所でも受け入れ担当者の配置やマニュアル等の整備を進め、今後は認知症支援の専門事業所として積極的に実習生の受け入れに取り組んでいきたい。</p>	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 感染拡大防止のためボランティアの受け入れを停止。
- ・ 感染防止の観点からアクティビティ等の内容を見直して随時変更対応。
- ・ 感染拡大防止のため緊急事態宣言時の外部活動（畑作業）の一時休止を実施。
- ・ 送迎時の感染防止対策を強化。換気、消毒の徹底、利用者への乗車前検温等の実施に取り組む。
- ・ 1回目の緊急事態宣言時から通所継続希望は多く、八王子市と協議し感染対策を講じて通常運営を継続。

3. 白楽荘訪問介護事業所

令和2年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 12,000 千円	14,200 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録ヘルパーの効率的なシフト管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録ヘルパーの勤務状況などの調査を行い、各々の登録ヘルパーが効果的にサービス提供を行えるシステムを構築した。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所への自費サービスを含めた PR 活動の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡会や他事業所と連携し、サービスの受入れ状況やサービス内容を PR して、サービスの拡充に繋げる事ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録ヘルパーの人員確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の事業所（通所介護等）とのダブルワークの推進、サービス提供責任者の強化など、効果的な人員配置を実施した。
<p>《総括》</p> <p>収益目標については達成出来た。年間収支については赤字とはなっているが、単月では黒字になる月もあり、人員の強化と事業の拡充を進めることができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>サービス利用希望に対して適宜対応できるように登録ヘルパー数の増加を図る。登録ヘルパー数を増やすことでサービス提供基盤の強化につながり収支の改善を図れることから、改めて人材の採用方法を検討していく。</p>	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅サービス計画書に沿った介護支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者会議の内容や居宅サービス計画書を受けて、計画書の内容に沿って適切なサービス提供を行った
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定したサービス提供のための業務の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回ヘルパー会議を実施し、計画に基づいた研修、ケース対応に関しての話合いなどにより業務の平準化に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者やその家族からの要望やニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス提供責任者が毎月1回以上自宅に訪問し、サービスの提供状況、要望やニーズの把握に努めた。 ・ 担当ケアマネジャーと情報の共有化に努め、サービスの改善に取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>緊急事態宣言中は一時的に参集を中止したヘルパー会議も、ネット配信による動画研修を実施した。利用者宅に直接訪問する登録ヘルパーの情報を適切に把握する事で、サービスの質の向上に努めることが出来た。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>サービス提供責任者を中心に、利用者へのサービス提供状況、利用者や家族の要望を適切に把握することに努め、担当ケアマネジャーとの連携を更に深めていくことで、自立支援にむけたサービス提供に努める。</p>	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 登録ヘルパーの定期的な研修体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパー会議とあわせて行う研修は、登録ヘルパーの資質や事業所の状態を把握しながら、計画的に研修を行うことが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 事業所と登録ヘルパーとの交流促進 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパー会議の際には、必要な申し送りや研修の他に、登録ヘルパー同士の交流促進のために話し合う機会を意図的に設けた。
《総括》 登録ヘルパー同士が連帯感を持って業務に取り組めるよう、定期的に交流を持つことが出来た。また、必要な情報を随時メールなどで提供する事で、事業所とも良好な関係を維持する事が出来た。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 人材育成や職員のやりがいについては、今年度と同じ取り組みを継続していく。また、事業所だけでなく、法人との関係も視野に入れた取り組みも今後は検討していく。	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険事業者連絡会主催のヘルパー部会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で多摩市のヘルパー部会や連絡会は開催されなかった。
<ul style="list-style-type: none"> 近隣学校などの実習生の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士、初任者研修、社会福祉士の実習生を受け入れた。 コロナ禍で訪問実習が出来ない学校には、サービス提供責任者が学校に訪問し講義をするなどの対応を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 地域行事やイベントへの参加 	新型コロナウイルスの影響で予定していた地域行事やイベントへの参加が出来なかった。
《総括》 ヘルパー部会や連絡会への参加はコロナ禍で出来ていなかったが、事業所間の交流については、訪問時や電話連絡時に地域の状況などの情報交換を行った。また、実習生対応については可能な限り対応した。	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 リモートによる会議への参加やオンラインでの地域との繋がり等に職場のWeb環境整備が可能となったので随時検討していく。地域行事やイベントの開催が難しいなかで地域とのつながりや連携については引き続き検討していく必要がある。	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 利用者宅への訪問時等の感染対策を強化。利用者の体調観察などを適宜実施し、感染拡大防止に努めた。
- ・ 感染拡大防止のため登録ヘルパーが一度に参集する会議を一時停止。市内等の感染状況を注視し、感染対策を講じつつ再開を図った。
- ・ 新型コロナウイルスの影響による近隣訪問介護事業所の事業縮小や休止に伴い、当事業所への利用者受け入れ要請に可能な限り応じた。
- ・ 事業継続性を高めるため、サービス提供責任者同士の感染防止のため、事務スペースの分離を図った。

4. 白楽荘居宅介護支援事業所

令和2年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 18,650 千円	17,356 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターとの綿密な連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規利用者の受入れを円滑に進めるため、多摩センター地域包括支援センターやあんしん相談センター由木東と適宜情報提供や情報共有を図った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定事業所加算の算定継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定事業所加算の算定継続のための研修の参加や情報の共有、会議の開催などを計画的に実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 白楽荘居宅介護支援事業所とよがおかとの連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅介護支援事業所とよがおかとの連携を強化するため、毎月1回以上合同の会議を開催し、情報交換やサービス向上への意見交換を行った。 ・ 新規利用者の受入れ可能件数等の状況など情報共有に取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>介護支援専門員3名体制で、利用者登録件数も一人当たり35人平均を維持した。収支の目標に掲げていたのが、人件費比率が100%以下になるように登録件数や請求件数をキープする事で、目標設定には近づいた数字となる。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
《次年度以降にむけて》	

令和3年度から介護支援専門員を1名増員し4名体制となる。現在の特定事業所加算（Ⅲ）から特定事業所加算（Ⅱ）の算定となることで加算が増加する。また、新任の介護支援専門員へOJTを計画的に実施していく。

提供サービスの充実・向上

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々の対応の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々の担当ケアマネジャーだけでなく事業所全体で利用者支援に取り組むため、利用者情報の共有や職員間でケースの相談を適時実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 適切なケアプラン作成によるケアマネジメントの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートと居宅介護計画書を職員間で確認し適切なケアプランの作成に取り組んだ。
<p>《総括》</p> <p>3名の介護支援専門員がそれぞれ行政や地域サービスの把握に努め、互いに情報を共有し利用者支援の向上に取り組んだ。新たに法人内に開設した白楽荘居宅介護支援事業所とよがおかとの連携に取り組み、合同ミーティングなどで情報共有等に努めた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>新たに配属予定の介護支援専門員の育成・教育に取り組み、職員相互に連携して事業所としてのサービス提供水準の向上に取り組む。また、各介護支援専門員の資質の向上にむけて研修計画を立て、知識や技術を全体で共有できるようにしていきたい。</p>	

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の研修計画の策定と研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定事業所加算の算定要件にも合致するよう職員個々の研修計画を立て、資質向上に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な勉強会や事例検討会の実施による支援技術の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で事例検討や勉強会の実施が予定より遅れた。 オンラインでの勉強会を中心に地域の事業所と連携を取りながら進めた。
<ul style="list-style-type: none"> 職員の業務負担の軽減に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務的な作業や電話受付等について法人内の事業所や本部と連携を取り、業務の効率化に適宜取り組んだ。

<p>《総括》</p> <p>コロナ禍で研修や勉強会について初めてWEB環境に取り組んだが、円滑に進まない場面もあった。しかし、各職員が継続して取り組み、徐々に環境が整備されたことで活用ができるようになった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>Web環境の整備やPCの導入などで業務の効率化を進めていく。業務の効率化を図りつつ、職員が個々の利用者支援により注力し、やりがいを持てる事業所となるよう課題を明確にしていく。</p>	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関や地域包括支援センターとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ感染症の影響で年度前半は関係機関との連携には苦慮し、思うように進められなかった。 ・ 年度の後半には各事業所も感染対策を講じての対応が可能になり連携を取ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や各種団体との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で地域との関りは、十分に取ることができなかった。地域行事への参加も出来なかった。
<p>《総括》</p> <p>地域住民にむけての取り組みは、新型コロナウイルスの影響で地域行事等もほぼ中止となり、そうした場面を活用した新たな取り組みも実施できなかった。事業所単独で地域活動を実施するためには人員や設備等の課題もあった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>行政や関係機関との関りは双方のWeb環境が整いつつあり、次年度はさらに対応が容易になると予測されるため積極的に活用していきたい。また、地域住民等にむけた取り組みについては、居宅介護支援事業所としての取り組みを検討していきたい。</p>	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 感染拡大防止のため行政等からの通知に基づき、利用者宅への訪問を必要最低限に抑えて業務を実施。緊急対応等については感染対策を講じて適宜対応した。
- ・ 職員同士の感染蔓延を防ぐため、事務スペースを分離して業務に取り組んだ。

5. 白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか

令和2年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 17,550 千円	14,520 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターとの綿密な連携 	<ul style="list-style-type: none"> 中部包括支援センターエリアに開所したが、新型コロナウイルスの影響で十分な連携は取れなかった。しかし、「とよよん」を通して中部包括支援センターとの関係性は構築出来てきている。
<ul style="list-style-type: none"> 特定事業所加算の算定 	<ul style="list-style-type: none"> 7月より特定事業所加算(Ⅲ)の算定を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅介護支援事業所との連携構築 	<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅介護支援事業所との連携を図るため、毎月1回以上合同の会議を開催した。 情報交換してサービス提供に活かすことと、新規の受入れ調整なども可能となった。
《総括》 新型コロナウイルスの影響により様々な制約のなかでの事業開始となった。そのような状況下ではあったが、新規利用者件数の増加は想定以上の速さであった。しかし、長引く新型コロナウイルスの影響により、地域包括支援センター等からの新規利用者の紹介が一時止まり、目標とした件数には届かなかった。	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 健幸つながるひろば「とよよん」が併設されていることを活かし、地域住民からの相談に随時対応して新規利用の相談につなげていく。また、近隣にある中部包括支援センターとの連携を深め、ケアプラン作成依頼には随時対応していく。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ご利用者個々の個別対応の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の支援について、職員間で協力して新規利用者の調整や申し送り、個々のケースについての相談ができるよう取り組んだ。

<ul style="list-style-type: none"> 適切なケアプラン作成によるケアマネジメントの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートと居宅介護計画書の職員間で供覧確認し、適切なケアプランの作成と支援に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> 新規開設事業所として運営体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で併設のとよよんの運営では様々な制約が生じて当初の想定通りにはできない面もあったが、居宅介護支援事業所の運営体制については整備することができた。 とよよんの運営を通して、地域との関係づくりは進めることができた。
<p>《総括》</p> <p>新規事業所としての開設初年度であったが、白楽荘居宅介護支援事業所での経験を活かし、サービス提供に必要な取り組みは円滑に実施できた。また、職員間での情報の共有を意識して取り組み、事業所全体でサービスの質の向上に取り組むことが出来た。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>事業所のサービス提供力の向上にむけて、個々の支援技術向上につながる事業所全体での研修計画や情報共有のあり方について検討していく。</p>	

<p>人材育成・やりがい・はたらきがい</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で参加型の研修は出来なかったため、オンラインによる研修への参加が主体となった。
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な勉強会や事例検討会の実施による支援技術の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で事例検討や勉強会の実施が予定より遅れていたが、オンラインでの勉強会を中心に地域の事業所と連携を取りながら進めた。
<ul style="list-style-type: none"> 職員の業務内容に適した環境整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の業務負担を軽減する為に、法人内の事業所や法人と連携を取りながら随時進めた。
<p>《総括》</p> <p>新規事業所の開設ということもあり職場環境の整備には時間を要した。とよよんを併設していることから、従来の居宅介護支援事業所にはない取り組みがあり、職員の柔軟な対応が必要であった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p>	

従来の居宅介護支援事業所機能と地域活動機能を融合させた事業展開を検討していく。介護支援専門員業務と地域活動業務の並立ができるよう、職員のやりがいや人材育成につながるよう法人と連携した体制を検討する。

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店会や地域住民との関係づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店会に加わり地域の取り組みに参画したが、コロナ禍で計画していた取り組みは予定通り出来なかった。 ・ とよよんでの取り組みを通して、着実に関係性が出来てきている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関や地域包括支援センターとの連携関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染症の影響もあり、サービス提供に関する連携は不十分であった。しかし、中部包括支援センターや見守り相談窓口の職員との交流には成果があった。
<p>《総括》</p> <p>事業所の目的でもある地域に根差した取り組みとしては、地域の活動に参加することや防災会への定期的な参加などを通して一定の成果をあげることができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>商店会や地域活動への参加やとよよんの運営に関して、事業所としての活動範囲はより広がることが予測される。事業所だけではなく法人との連携で活動を支える仕組みを構築する事が必要とされる。</p>	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 新型コロナウイルスの影響により事業所工事に遅れが生じ、多摩市と協議した結果、4月開設時は山王下施設内での業務開始となった。また、その後緊急事態宣言となり、豊ヶ丘事業所での業務開始は6月からとした
- ・ 感染拡大防止のため行政等からの通知に基づき、利用者宅への訪問を必要最低限に抑えて業務を実施。緊急対応等については感染対策を講じて適宜対応した。
- ・ 職員同士の感染蔓延を防ぐため、とよよんが休止中は事務スペースを分離して業務に取り組んだ。
- ・ 健幸つながるひろばとよよんは新型コロナウイルスの影響により6月からの開始となった。その後も緊急事態宣言時は感染拡大防止のため活動を休止した。
- ・ とよよんでの活動は感染拡大防止のため来訪者の健康チェック、3密を回避するための利用人数制限などを実施した。

V. 地域包括支援センター

1. 多摩市多摩センター地域包括支援センター

令和2年度の重点的な取り組みについて

委託費・収益予算	
《予 算》	《実 績》
委託費 : 36,000 千円	38,328 千円
介護予防支援収益 : 12,760 千円	13,472 千円
《取組内容》	《結 果》
・ 介護予防支援費・介護予防ケアマネジメント費の安定的確保	年間を通し、安定した収入を確保することができた。利用者のサービス利用控え（新型コロナウイルス感染症対策）はみられたが、電話モニタリングを行い、減収幅を最小限に留めた。
・ 人件費の抑制	2班体制勤務による影響により、一時超過勤務時間が抑制された。ただ、一部の職員に業務負担が集中する現状は年間を通し続いている。
・ 事業費の抑制	コロナ禍による高齢者宅訪問数の減少、会議・イベント・地域活動の中止等により、燃料費や駐車料金の支出が抑制された。
・ 事務費の抑制	両面印刷の習慣、介護サービス事業所へ書類手渡しの習慣が定着し、抑制につながった。
《総括》 委託費については、個別地域ケア会議を5件実施したことで、委託費の減額を防ぐことができた。介護予防支援収入と人件費等の費用（支出）については、一定程度のコントロールが行えた。その結果として、年間を通し毎月の収支差額をプラスとして積み上げることができた。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 引き続き、安定した介護予防支援収入の確保と、人件費等の支出の適正化に取り組んでいく。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
・ 自立支援型ケアマネジメント能力の向上	ぐっどらいふミーティング対象者選定会議の実施およびOJTの手法を中心とした個別指導を実施し、職員個々の能力向上を目指した。

<ul style="list-style-type: none"> 「総合相談支援業務」能力の向上 	<p>指導職員（3職種3名）のうち1名が必ず初回訪問に同行し、OJTの手法を用い職員の能力向上を目指した。一定の成果が得られた。</p>
<p>《総括》</p> <p>コロナ禍による2班体制勤務という特殊な業務環境下であったものの、指導職員を中心に職員個々の上記業務遂行能力の向上に働きかけた。一定の成果は得られたが、多摩市基幹型地域包括支援センターから業務の質改善に関する指摘を受けることがあった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>中核となる上記業務のさらなる質向上を図るため、全職員に対しOJTの手法を中心に指導・教育を行っていく。</p>	

<p>人材育成・やりがい・はたらきがい</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> 経験の少ない職員の業務遂行能力の向上 	<p>職員個々が抱える課題に応じ、指導職員（センター長、主任）がOJTの手法を用い適宜指導・教育を行った。一定の成果が得られた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 中堅職員の業務遂行能力の向上 	<p>職員個々が抱える課題に応じ、指導職員（3職種各1名）がOJTの手法を用い適宜指導・教育を行った。期待する成果は得られなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 職場環境から発生するストレスの軽減 	<p>2班体制勤務および2カ所に分散設置した事務室の日内移動という特殊な業務環境下において、様々な負担を強いられたが、全職員が互いに協力し難局に対応している。</p>
<p>《総括》</p> <p>2班体制勤務という特殊な業務環境下ではあったものの、指導職員を中心に人材育成に取り組んだ。一定の成果を得ることができたものの、充分とは言い難い。業務環境が不十分な中、全職員が協力して業務を遂行した。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>業務遂行能力の向上を図るため、対象職員個別の課題をそれぞれ設定し、OJTの手法を中心に引き続き指導・教育を行っていく。</p>	

<p>市の実施方針への取り組み</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地域特性・課題やニーズの把握、地域資源の開発や地域課題解決に向けた政策提案 	<p>個別地域ケア会議を5件実施、それぞれのケースについて地域課題を検討・抽出し多摩市へ提言を行った。また、多摩市が開催する地域課題</p>

	ネットワーク会議に参加し、災害時要援護者リストの作成に寄与した。
・ 介護事業者・医療機関等とのネットワーク構築	医療機関とのより緊密なネットワーク構築を目的に、計6機関（クリニック、調剤薬局）と直接対話し、今後の連携・協力を依頼した。
・ 第1号介護予防支援事業等の実施	介護予防・日常生活支援総合事業の考え方のもと、高齢者の自立支援に向けたケアマネジメントを行った。
・ 介護支援専門員に対する支援・指導の実施	困難事例等について、地域の介護支援専門員と連携し、適宜課題解決への支援を行った。落合ケアマネ会はコロナ禍により未開催であった。
・ 地域ケア会議の運営	権利擁護が必要なケースや医療的支援が必要なケース等、計5件（にこにこミーティング1件、らくらくミーティング4件）の個別地域ケア会議を開催し、課題解決への検討を行った。
・ 認知症高齢者への支援	コロナ禍により、認知症カフェ（からきだ匠カフェ、ふらっとカフェ）は当初の計画通りに実施できなかった。認知症サポーター養成講座や認知症予防の学習会についても、同様の理由により依頼が殆どなく、開催に至らなかった。
・ 「公的な機関」としての公正・中立的な事業運営	介護予防支援事業所や居宅介護支援事業所、介護サービス事業所の選定については、利用者の個別事情等を加味し、最適な選択となるよう心がけ実施した。
《総括》 コロナ禍により、当初の計画通りに実施できなかった項目はあるものの、多摩市の実施方針に沿い概ね取り組むことができた。	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 市の実施方針に沿い、各項目を確実に実施していく。落合ケアマネ会や認知症カフェについては、コロナ禍の状況にあっても実施可能となる方法を模索し、積極的に取り組みを進めていく。	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 感染拡大防止のため行政等からの通知や多摩市からの指示に基づき、利用者宅への訪問を必要最低限に抑えて業務を実施。緊急対応等については感染対策を講じて適宜対応した。
- ・ 事業継続性を高めるため2班体制を組み、職員間での感染予防に取り組んだ。

- ・ 2班体制での業務は事務スペースを2カ所に分離して事業所内での感染拡大防止に取り組んだ。

2. 八王子市高齢者あんしん相談センター由木東（地域包括支援センター）

令和2年度の重点的な取り組みについて

委託費・収益予算	
《予 算》	《実 績》
委託費 : 43,359 千円	43,622 千円
介護予防支援収益 : 8,500 千円	8,187 千円
《取組内容》	《結 果》
・ 規定職員数の保持	・ 委託費は減額されることなく職員数の保持ができた。
・ 介護予防支援費、介護予防ケアマネジメント・認定調査費の確保	・ コロナ禍のため認定調査は実施せず。 ・ 介護予防支援費・マネジメント費は直接担当するプランの割合が増加したため、増額となっている。
・ 必要経費の削減に取り組む	・ 当初車を4台使用していたが、現在2台に削減。自転車（4台）での訪問に努めている。
《総括》 ・ コロナ禍で感染予防のための備品を購入し対応した。 ・ 集合型の講座・会議ができない状況にあったため、支出が少なくなった。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 令和3年度より新たに地域支援や介護予防に取り組む生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員が加わり8人体制となった。新体制での取り組みを確認し、コロナ感染予防に留意しながら事業を推進していく。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
・ 職員の資質向上を図る。	・ オンラインでの研修や会議に多く参加することができた。各専門職以外の分野でも適宜研修の受講ができた。
・ 包括内での情報共有・ケース検討を複数の専門職で行う。	・ 業務量や役割分担をなるべく均等にするために、ケースの共有や検討を複数で行うこ

	とに留意し、適時関係機関との調整に努めた。
・ 他機関との連携を図る。	・ 八王子市東部圏域の関係機関（あんしん相談センター堀之内・南大沢・地域福祉推進拠点由木東・由木・ふらっと相談室松が谷）を中心に個別のケースや地域課題に対して連携を行った。
・ スムーズに窓口対応を行う。	・ 由木東事務所市民課、地域福祉推進拠点由木東と各担当がスムーズに窓口対応ができるように対応を行った。 ・ 毎日5件程度予約なしの来所相談があり、お互いのスケジュールを確認し窓口・電話対応・訪問等がスムーズにできるよう調整した。
《総括》 ・ 最初の緊急事態宣言下では土曜日の窓口閉鎖（市からの指示）や2班体制での業務に取り組んだ。 ・ 集合型の研修や会議がオンラインに変更になったことにより、参加人数を増やすことができ、資質向上につながった。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 ・ オンラインを活用し継続して研修を受講し、各自の資質向上を図る。 ・ 八王子市の重層的支援体制整備事業が始まるため、多問題ケースや困難ケース等に対し制度を利用して対応していく。 ・ 資格取得や各々のライフワークバランスが実現できるように業務分担を行う。	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
・ 研修や地域での会議へ積極的に参加する。	・ オンラインでの研修・会議、コロナの状況を見ながら集合型研修・会議へ参加。
・ 各担当が他機関と連携し講座や会議を開催する。	・ コロナの状況から集合型の講座や会議の開催ができなかった。
・ 災害時の対応や必要なものの準備を行う。	・ 事業所の備蓄について検討し準備に取り組んだ。
《総括》 ・ 研修受講や会議参加以外にも、社会福祉士や看護実習を受け入れることで育成を図ることができた。	《総合評価》 A

<ul style="list-style-type: none"> 主任ケアマネジャー（1名）・社会福祉士（1名）の資格取得ができた。 	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 講座や会議をオンラインでスムーズに開催できるスキルを習得する。 感染症や災害が発生した場合でも事業が継続できるように計画策定を行う。 	

市の実施方針への取り組み	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や地域関係者と連携し地域ケア会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため集合型2回の開催に留まった。「コロナ禍での高齢化が著しい松が谷・鹿島団地の現状について」「リ・エイブルメント～通所Cを通して～」
<ul style="list-style-type: none"> 自立支援に向けて総合事業の活用、社会資源づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 通所C型の試行的実施を関係機関と共に行った。 コロナ禍のため社会資源となっていたサロンやシニアクラブなどの活動の多くが中止となった。
<ul style="list-style-type: none"> 認知症になっても安心して生活できる地域づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 未受診の認知症の方の相談が多く、スムーズに受診や必要なサポートに繋げるようにした。 おれんじドアの会のサポート、家族介護者の会や認知症サポーター養成講座を開催した。
<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員への適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多問題ケースや困難ケースなどのケース検討を関係機関を集めて行った。 多くの相談が寄せられるなか、問題が複雑化する前に課題の解消が図れるよう、対象者との関係性を築けるよう取り組んだ。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であり集合型の会議・研修が開催や参加が減ってしまったが、オンラインでの参加・受講の機会を多く作ることができた。 コロナ禍のためサロンやシニアクラブなど開催していないところも多く、連携の機会が少なくなったため、広報誌配布等で情報発信を行った。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">B</p>
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 今後は感染予防のため、オンラインでの講座・会議の開催にも取り組んでいく。 コロナの状況を注視しながら感染予防に努め、介護予防・自立支援を目的とする事業を地域で行っていく。 	

その他（新型コロナウイルスへの主な対応等）

- ・ 感染拡大防止のため行政等からの通知や八王子市からの指示に基づき、利用者宅への訪問を必要最低限に抑えて業務を実施。緊急対応等については感染対策を講じて適宜対応した。
- ・ 事業継続性を高めるため2班体制を組み、職員間での感染予防に取り組んだ。

《参考》総合評価集計表

	A	B	C
法人	3	0	1
白楽荘	3	1	0
白楽荘短期入所生活介護	3	0	0
偕楽荘	3	1	0
白楽荘デイサービスえがお	0	3	1
白楽荘デイサービスほのぼの	0	3	0
ほのぼの堀之内	1	3	0
白楽荘訪問介護	3	1	0
白楽荘居宅介護支援事業所	2	2	0
白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか	2	2	0
多摩センター地域包括支援センター	1	3	0
あんしん相談センター由木東	3	1	0
合計	24	20	2

